



2009年11月7日 第9号
障害者の社会参加、自立・就労支援



〒302-0027
取手市駒場4-5-24
Tel 0297-73-836
(平日 10:00~15:00)

当事者NPO法人として

副理事長 宮脇貞夫

設立して5年目のNPO法人活きるは活動の主体になるべく身体障害者およびその介護家族、それらを支えてくれるボランティアさん、そして活動に賛同して経済的に支えてくださる会員の人たちによって成り立っています。設立の目的は在宅の身体障害者の社会参加・自立・就労の支援を旗印にしていますが、本来の目的は大きな障害があっても生まれ育った家・地域で安心して暮らし、社会の一員として地域に貢献し、且つ楽しい人生を全うするために会員どおしが力を合わせて活動することです。社会参加のきっかけ作りおよび楽しみを提供するためのイベント（活きるリハビリスポーツ、バスハイク、電車でGO、コンサート、バーベキュー大会など）は毎年定期的で開催して、好評を得て定着しています。毎回ボランティアや協力して下さる専門家のおかげで安全に楽しい時間を提供しています。当事者家族は多かれ少なかれ大変な生活を強いられていますが、これらのイベントで交流が深まり笑顔を忘れないようになっていると思います。

就労支援が目的の収益事業（魚販売、笠間焼ユニバーサルデザイン食器の普及・販売、印刷）はある程度基盤ができたと思いますが、まだまだ障害者が給料をもらって参加できる環境には至っていません。今後、ハード・ソフト両面を充実させて環境整備していくつもりです。設立5年目になり、ある程度NPO運営に慣れ、内部的に安定した今年はより積極的に社会貢献活動に力を入れるように努力しています。当事者の経験を地域福祉に役立てるように、積極的に行政やサービス提供者と話し合う機会を作ったり、生活相談やピアカウンセリング等の相談業務、講習会等の開催、他団体との連携などです。

これからのNPO法人活きるとしての目標は障害者家族が安心して生活できるように、ボランティアが公的福祉サービスで対応できない穴を埋めるようなシステムを構築することです。たとえば障害者家庭が急に通常生活が送れなくなるような緊急事態（予定外の出来事、病気や不幸）のときにボランティアが対応できるようなシステム。また、介護してくれる家族が介護できなくなった事態に陥ったときに家族の代わりにできるシステム（夜間支援やショートステイのお手伝い等）を考えています。それには、より多くの強い気持ちを持ったボランティア育成が必要です。今後は障害者が地域に生きるためにボランティアの増強に努めて役割分担を明確にしていきたいと思っています。

ご存知ですか？

健康保険で在宅マッサージが受けられます！

お問い合わせ、ご相談などお気軽にご連絡ください。

オリエンタル治療院

〒301-0041 茨城県龍ヶ崎市若柴町 2183-9 TEL 0297-65-0985 FAX 0297-65-3323

◆◆◆◆◆人にやさしい器in取手◆◆◆◆◆

平成 21 年 7 月 5・6 日

毎年恒例になりました笠間焼ユニバーサルデザイン食器の展示会を取手市役所内の福祉交流センターで開催しました。窯業指導所「工房・笠間」の介護食器の研究グループKDSは、今年度から独自の活動をより発展させるために作家さんが主体となってひとにやさしい器開発研究会（KDS）として独立しました。KDSは「誰にでも優しく使いやすい器を」というユニバーサルデザインの思想を更に推し進め、一人ひとりに対応したユニバーサルデザインやバリアフリーなどを研究しています。陶芸家だけではなく、医療、福祉、障害者支援団体などを交えて、多くの方に利用していただける工夫をしています。昨年同様、KDSから新しいものを含めて多くの作品を提供していただきました。「楽食しよう」を合言葉に自分に合った食器を見つけて、食べる楽しみをいつまでも持ち続けていただきたいものです。今回は市の広報だけでなく何誌かのミニコミ誌に案内記事が載った

せいか、やさしい器を目的に来られた方が多くありました。また、5日（日）に朝日新聞が取材に来られて、翌日の朝刊に写真入りで記事が載ったおかげで何人かの問い合わせもありました。おかげさまで昨年以上に大盛況で100人以上の来場者が興味を持って器を見ていかれました。5日（日）にはKDSのオブザーバーをされている、歯科医の埴先生が来られ、来場者に楽食の大切さとやさしい器の効果などを説明していただきました。そして、今回の大きな成果はオーダーメイドの注文が何件かありました。活きるオリジナルのオーダーメイド作品を参考に障害を持った方から好みの形状や色で注文をいただきました。QOL（クオリティーオブライフ）の低い方は機能に応じた食器を使うことで楽食が実現できます。NPO法人活きるの活動のひとつとして、今後もKDSのやさしい器の普及に努めていきたいと思いました。



朝日新聞 7月6日付
茨城首都圏版



熱心に作品を見ている

♪ サマーコンサート

平成 21 年 8 月 23 日

NPO法人活きる主催「サマーコンサート」が開かれました。日頃、なかなか生の音楽を聴けない我々にとって年に一度の楽しみでもあります。当日は昨年に引き続き「よーこ&たかP」ご一行をお招きしてさわやかな歌声に酔いしれ、おいに盛り上がりました。本番直前に「よーこ&たかP」の息子さんがステージ上で駄々をこねる姿はご愛嬌でしょう。内容的には「会場の皆さんと一緒に唄えるように」と60年代、70年代のフォークソング3曲を用意して下さって、皆さんと大きな声で唄って気持ち良かったと思います。ポップス系の耳に聞き覚えの曲を多く唄って下さって、一緒に口ずさむ人もいらっしやって、皆さん、大いに楽しまれたことでしょう。ご鑑賞くださった方全員が素晴らしい一時を過ごすことが出来たことと思います。来年は、少しでも多くの方々にご鑑賞していただくようイベントの周知を徹底したいと思っています。（染野記）



NPO法人活きる有償福祉移送サービス「いくべ〜」

- 移動が困難な障害者や高齢者の外出支援のため、活きるのボランティアが、有償で送り迎えいたします。

ボランティアドライバー 大募集 !!

お問合せ **TEL/FAX 0297-73-8361 (平日 10:00~15:00)**

- 障害者の介助ボランティアも同時に募集しています。活きるの当事者会員の簡単な介助や見守り、活きるのイベントのお手伝い。

熱い 一日

◆◆◆バーベキュー大会◆◆◆

平成 21 年 7 月 26 日

毎年、夏のリハビリスポーツの際にバーベキュー大会を行いました。今年は7月のリハビリスポーツは会場の手配ができませんでした。そんじゃあ、バーベキューだけ楽しもうということになりました。当日の天気予報は曇りだったのですが、ふたを開ければ今年一番の暑さ！社協から大きなテントを借りていたので日差しは防げるものの、熱中症の心配が・・・

10時から準備要員が集まり、早速、コンロの設置と炭に火をおこし始めました。11時に大きなテントを張るために社協職員のIさんとKさん、そして社協ボランティアの方が来てテントを設置してくださいました。机やイスを配置し、肉やとうもろこしに火が通り始めた頃に続々と腹をすかせたお客さんが来ました。総勢40人ほどでしょうか。理事長のそめさんが到着し、開会の挨拶。待ちかねたように、みんな肉をほうばり、ビールを浴び始めました。気温は30度を超えています。特に焼き手は炭の反射熱で汗だくです。みんな舌鼓を打ちながらわいわい大騒ぎです。日頃お世話になっているAリハビリ病院のO/Tさんたちにはお礼の意味をこめてたっぷり食べてもらっています。初めての参加や初顔合わせの方も多かったのですが、とにかくみんな食べて飲んで楽しんでもらいました。心配された熱中症もなく、肉やビールも底を付き、約3時間ほどで開きになりました。暑さに比例して大いに盛り上がったバーベキュー大会でした。来年も今年以上の参加者で楽しみたいと思います。



◆◆◆おねがい◆◆◆バザー出店の為、不要品提供のお願い

ご家庭でいらなくなって、まだ、十分使用できる品物のご提供をお願いいたします。ご提供される品物は、直接「生きる」の事務所へご持参いただくか、ご連絡いただければ取りに伺います。

◆◆◆お魚販売日の変更のお知らせ◆◆◆

日頃のご愛顧誠にありがとうございます。

新取手店の販売日時を変更することになりました。平成22年1月より毎週水曜日の午後1時より午後4時までとなります。尚、駒場店は今まで通り（月～金曜日祝日を除く午前10時より午後3時まで）販売致しております。これからも、おいしいお魚を皆様にお届けいたしますので、よろしくお願いたします。

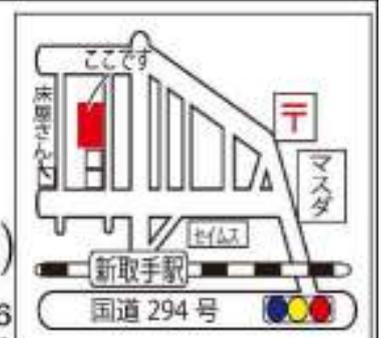
NPO法人 **生きる** の **魚販売**

鴨川直送冷凍水産品

<例>魚（アジ・サンマ等）のひらき

- ・手開き
- ・自然塩
- ・天日干し
- ・食品添加物なし

- ・毎週金曜日
(但し、平成21年12月末まで)
PM1:00～PM4:00
 - ・配達いたします。(取手市内1,000円以上)
 - ・お問い合わせ
TEL 080-6720-0196
FAX 0297-73-8361
- ※ご来店のお客様は定価の1割引いたします。



100万円の寄付

平成21年7月31日

NPO法人活きるでは、そのとき24時間テレビから寄贈されたアトレーのスロープ車1台を移動サービスで運用していましたが、重度の利用者が増えてもう1台福祉車両の必要性に迫られ、日本財団の福祉車両助成に申請したところでした。ちょうど、そのときにこの寄付のお話をいただき、役員会で検討して、やはり地域の方からの寄付の方がNPOとしてより重みがあると考え、財団には申請を取り下げ、寄付をいただくことにしたのです。早速、車両選定に取り掛かりました。現存の車両は車椅子のまま乗っていただくものですが、やはり乗り心地はあまりよくないので、できれば簡単に普通のシートに乗っていただき、快適に移動できるものとしてハイゼットのサイドリフトアップシートを検討しました。車両価格は乗り出し140万円とかなり安く購入できることで、寄付していただいた100万円と自己資金40万円を加えて購入することを決定しました。車両は、7月31日に納車され、取手市社会福祉協議会の社屋前で贈呈と記者会見が行われました。取材は主要新聞6社が来られ、寄付に至るまでの経緯を岡田次長が説明され、そして染野理事長がNPO法人活きるの活動主旨と福祉移動サービスの現状を説明しました。その様子は4誌の地方版に写真入で大きく掲載され、寄贈された車両が移動サービスで取手市内を走り回ることによって、寄付された方の思いが市民の方々に伝わり社会貢献への関心が高まると思います。また、NPO法人活きるの地道な活動がこのような寄付をいただけるようになったことをとても光栄に感じるとともに、これからも障害者のためにより積極的な支援活動をしなければいけないと改めて感じています。



学校ボランティアレベルアップ講座

平成21年8月26日

取手市社会福祉協議会(社協)では、学校ボランティアの方々(一般の協力者)を通じて、小学生に障害者理解のための授業をしていました。その授業は社協が提供したマニュアルを元に、障害者支援のために介助技術を教えることを主体としたものでした。その指導方法に疑問を持った、今年ボランティア部門に10年ぶりに復活したA氏は、障害者理解の原点を子供に教える必要があると感じ、学校ボランティアの指導要綱の見直しを考え、今回のレベルアップ講座を開催しました。障害当事者の考えを反映させるために、NPO法人活きるへの協力依頼があり、理事長の染野と宮脇夫婦が参加することになりました。この講座の第一の目的は、福祉は技術的なことではなく身近なことだということ、ボランティアさんが子供たちに伝えてほしい、そして障害とは特別なことではなく誰でもいつでも背負ってしまう可能性があることを伝えてもらいたい。手法としては子供たちにいかに興味を持たせるかということです。A氏の指導方法は、子供たちに考える機会を与えることです。いきなり技術を教えるのではなく、障害者が遭遇する不便な場面を体験させ、どう対応すればよいか、又危険を回避できるかを考えさせます。技術の基本を教えることは重要なことですが、子供には無理なことが多く返って危険な状況に陥ることがあります。できないことも体験させ無理をしないということも覚えさせます。それらのことを今回参加されたボランティアさんに経験していただき、今回のレベルアップの目的を理解してもらいました。NPO法人活きるからの意見は、子供たちにどのような支援を期待するか、どのような考えで障害者に接してもらいたいかを話し、それをボランティアさんに理解してもらって今後の活動に反映してもらえようをお願いしました。



介護勉強会

平成 21 年 9 月 13 日

NPO法人生きるでは、歩行困難な方や一般交通機関を利用できない人のために自動車で送り迎えをする外出支援ボランティア(有償福祉移動サービス)を展開しています。中には一人で立ち上がれない人や歩けない人が多くいます。その場合、利用者さんがクルマへ乗る際に運転ボランティアの介助が必要です。今回の勉強会は移送ボランティアに従事している人を対象に移送の際によくあるシチュエーションを想定して少しでも利用者さんの負担を減らすとともに、ボラン



ティアが腰を痛めないような技術を練習する目的で開催しました。せっかくの機会なのでいくつかの施設にお知らせしたところ、ある施設スタッフの方が3人参加してくださいました。対象とする利用者さんは共通しているし、気持ちも同じなので、一緒に活動できることは大変うれしい限りです。さて、技術資料は実際に私が満理子の身体介助を通じて覚えたことや、技術書籍とビデオを見ながら、何度も繰り返して少しでも体で覚えることを重視しました。今回、勉強したことは、立ち上がりの介助、車いすからベッドまたは座席に移動する介助を勉強しました。立ち上がり介助の関しては、利用者さんの残存機能を引き出しお互いに負担がないようにします。移動介助はあまり筋力を使わないですむ方法を勉強しました。これらの技術は何度も繰り返して体で覚えさせるとともに人前で介助する際にも緊張しないできるように自信を持って介助できる技術的裏付けを持つことが大切です。機会がありましたら、今後も引き続き勉強会を開催します。



UD (ユニバーサルデザイン) タクシー

平成 21 年 9 月 14 日

全国移動ネット(特定非営利活動法人 全国移動サービスネットワーク)のI女史から電話があり、日本自動車研究所(以降JARI)で開発研究しているユニバーサルデザインタクシー(UDタクシー)のモニターになってほしいと依頼がありました。UDタクシーとは通常一般タクシーとして利用して、車椅子利用者が乗る際には車椅子のまま乗れるようなタクシーです。そして、特殊な装置が付いていない製造コストがかからないことも特徴です。障害者が自由に好きなところへ行ける環境づくりを目指している当法人の主旨にピッタリのテーマなので二つ返事で快諾しました。早速、JARIのDr. Yと打ち合わせをして実験の場所と日時を決定しました。場所はタクシーの乗車シチュエーションを想定するためにJR土浦駅前になりました。実験の主旨を考えて、代表のそめさん(SUZUKI・MC3000S改)と満理子(改造型Netti3)の二人が参加協力することにしました。さて、実験当日、約束時間に10分遅れで現地に到着。もう研究グループの方6名?と実験に使用する車両2台がすでに到着しスタンバイしていました。挨拶もそこそこに早速実験の開始です。まず、二人の車椅子の寸法を測り、重量を確認しました。用意された実験車両は、現在、開発候補にしているトヨタポルテと一般的な大型リフト福祉車両です。ポルテは助手席側のスライドドアの開口部がとても広いのが特徴です。用意されたポルテは福祉車両ではなくノーマルでした。

基本的なシチュエーションとして段差のある歩道からタクシーに乗るというタクシー乗り場を想定されたと思います。大型店舗前と駅前の2箇所で行いました。ポルテは助手席側からスロープを設置して歩道から乗車し、リフト付き福祉車両は後部から乗車します。その2台の乗車方法で、設定されたシチュエーションでの乗車する際の違い(乗り易さ、危険度など)をそめさんと満理子の二人に体験してもらい観察・計測して、二人の感想から研究の参考にしてもらいました。結果は研究報告がいずれ発表されるでしょう。今回のテーマで我々が感じたことは、UDタクシーが普及されたら移動困難者の移動手段の選択肢が大きく広がることになると同時にUDタクシーを運転することで運転者の意識レベルも格段によくなる効果があると思います。ぜひUDタクシーが普及されることを祈ります。しかし、普及されるには、企業の負担ができるだけ少なくなるように行政の支援が不可欠になるでしょう。



健康福祉祭り

平成 21 年 10 月 10 日

今年も笠間焼の展示販売とバザーの出店をさせていただきました。去年より人出が少なかったことですが、バザーに於いては盛況でした。皆様のご協力に感謝し、収益は活きるの活動に役立てきたいと思えます。尚、バザー一品は常時、活きる新取手店にて展示販売をしておりますので、是非お越しください



移動サービス運転講習会

平成 21 年 10 月 17 日

NPO法人活きるでは取手市在住の移動困難者のために外出支援の有償福祉移動サービスを展開しています。元々、活きるの当事者メンバーは車イス利用者が多く、外出には車で送迎が不可欠なために、道路運送法79条の届け出をして平成17年よりはじめました。今では取手市内の障害者、高齢者200人超がNPO法人活きるの移動サービスを利用されています。送迎にあたっては、すべて登録ボランティアさんをお願いしているのですが、当初16人いたボランティアさんが8人になってしまい、新たな利用者登録をお断りしなければいけない状態になってしまいました。そこで、取手市で移動支援している3団体（取手市社会福祉協議会、NPO法人ふじしろ福祉の会、NPO法人活きる）が共同でボランティアの確保を目的に運転講習会を開催することになりました。国交省の認定講習会とするために主催は茨城移動サービス団体連絡会にお願いし、段取りは社協さんをお願いしました。開催にあたって、取手市広報に大きく案内を掲載し、多くの市民に呼び掛けしました。その結果21人に受講していただくことになりました。受講された方々は、非常に熱心に受講し受講動機についてもボランティア精神で申し込まれた方がほとんどでした。ぜひ、資格を取得した暁には、3団体のいずれかに所属して、取手市内の外出困難な方たちのお役に立って欲しいと思っています。



◎とりで障害者協働支援ネットワークからのお知らせ◎

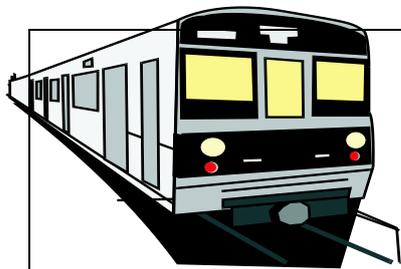
- 11月22日 映画「メタセコイヤの木の下」取手市福祉交流センター 多目的ホール PM1:30~3:30
- 12月12日 障害者週間 [アピールウォーク] 取手市福祉交流センターから取手駅西口行進

◎社会福祉協議会からのお知らせ◎

- 12月12日~18日 「とっておきの芸術祭 in 取手」交流センター
- 平成22年1月16日 講演「災害時の、自助？ 共助？ 公助？」

◎ことのは◎

- 11月21日 講演「防災取手市の現状」



電車でGO !!

in 柴又 平成21年10月28日

今年も、NPO法人活きる恒例イベントの「電車でGO」で柴又に行ってきました。NPO法人活きるの前身である「地域に活きたい障害者の会」からやっているイベントで、当時はまだまだバリアフリーが進んでいなくて、鉄道関係者に車椅子移動の不便さ、そしてその介助の大変さを知ってもらうために行っていました。しかし、最近では首都圏のJRについてはほとんどの駅にエレベーターや車いす用のエスカレーターが完備されていて、昇降に問題はありません。ただ、駅員さんは減多にこない大勢の車いす利用者の対応に慣れていないので、経験してもらうことを目的に今でも開催しています。そして、家族だけの電車移動は気を使ったり、体力的にも大変なので、この機会に色々経験してもらうのも目的です。もちろん、一番の目的は、車椅子障害者が楽しむことです。

※初参加者から

初めて！！の柴又…楽しかったです。また、自分が障害のある人の側に立って電車に乗る初めての経験(バスでの大移動はありますが)で、へえー、なるほど、…等々頭の休まる時のない一日でした。？十年前(私の学生時代)には、考えられないほどの公共交通機関の障害者への対応の変化がありますね。でも、駅員さん達は何か不都合なことや、事故があったら大変！という表情+行動、乗客の方々は(私も以前そうでしたが)、車椅子の方が乗っていらっしやると、あまりジロジロみない、自然に、自然に、と思っているとよけいに顔が無表情になる、でも何か、障害のある人と一緒の場にいることで、自分は何もしていないけれど、ボランティアの雰囲気を感じる…という車両全体に微妙？な空気(時に暖かく、時に迷惑げな…)が流れるのです。帰りのホームでの駅員さんが真剣に！な顔で、真っ直ぐ振り上げた赤い旗(何で赤なの…?)、車中での染野さんの笑顔と居眠りに…私、この電車でGOに参加して良かったなあ…と思いました。本当は、車椅子の方が、介助の方と自然に駅、→ホーム→電車へと進むことができるように、もっともっと、車両の改善、職員の介助教育?!などが必要ですね。お店なども同じですね。また、電動車椅子の運転技術の向上??も望まれます。染野さんの音も静かでスムーズな運転技術(さばき)に感動でした。勝山君を叱咤激励する教習所の教官なみの染野さんの声に勝山君も…お疲れ様でした。

(M. S)



リハビリ スポーツ

8月23日に毎年恒例のバーベキュー大会を駒場事務所で行いました。今回は、いつもお世話になっているPT、OTさんに加え、付近に住んでいる方にも声をかけ、招待しました。当日は約40人方に参加があり、暑さが厳しかったにもかかわらずおいしいお肉を食べながら、みんなで和気あいあいと笑い笑顔がこぼれていました。

9月27日に第20回のリハビリスポーツを交流センター多目的ホールで行いました。今回は定番の競技に加え、ポッチャという競技を行いました。この競技は赤と青のボールをジャックボールという白いボールに向かって投げ、近いほうが勝ちというゲームです。みんな白いボールに近づくかはらはらどきどきしながら真剣ですごく盛り上がりました。風船バレーではみんな風船を落とさないよう、お互いに声をかけあっていたのが印象的でした。



毎日介護賞 水戸支局賞 受賞!!

平成21年11月12日

取手市に関わらず地域社会において、健常者と障害者が街で普通に生活し共存するためには、多くのバリアがあります。それらの障壁を取り除くための活動は障害者本人は勿論、地域の多くの人々や行政機関などと協働して活動を進める事が大切です。

また、障害の程度に関わらず生活面のサポートレベルが障害者本人の自立に大きな影響を与えます。障害者にとってこれらの公共サービスが本人のニーズにどれだけ適合しているかは死活問題となります。制度の中で解決できない問題があるとすれば、地域で支え合う組織が必要となってきます。

さらに、障害者にとって自立のための大きなバリアは就労問題です。障害があっても残された機能や能力で十分に職業能力を発揮できる人がいます。

また、重度障害者を抱えた介護家庭においても家族が同様な問題を抱えており、介護に要する時間的な問題が就労に大きな影響を与えており社会的な問題でもあります。

そんな中、平成17年2月に当事者とその家族そしてそれを支援するボランティアが中心となって設立されたNPO法人活きるはこれらの問題を解決し、障害者の自立と社会参加を進めるために、これに賛同する会員や地域の人たちと、専門的な知識と経験のある方たちの協力を得て生活、介護、就労、余暇活動、地域サービスなどを目的とした総合的な支援を行い、障害者や家族が人間本来の生き方ができるような活動を進めています。

具体的な活動として、社会参加のきっかけづくりのために、リハビリ目的のスポーツイベントをはじめ当事者やボランティア、専門家との交流する場として各種イベントの開催、そして障害者の社会参加のためや高齢者の外出の移動手段を提供するための道路運送法79条申請による福祉移動サービス事業の運営。また、就労支援のために冷凍水産品や介護食器の販売、印刷事業、移動サービスの事務作業などを就労訓練の場として提供しています。

このような活動が認められ、取手市の推薦を受け、今回、毎日介護賞水戸支局長を受賞しました。この受賞は、積極的に障害当事者が地域に働きかけ、そしてそれをサポートして下さった多くのボランティアの方々によるものです。これからも、より一層精力的に活動したいと考えています。推薦して下さった取手市藤井信吾市長、高齢福祉課、そしていつも応援して下さっている地域の方々に感謝いたします。

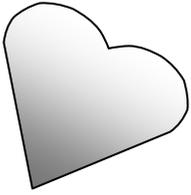


授与式の様子

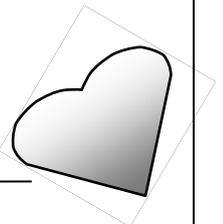
秋から冬へと変わる季節、みなさまお元気でお過ごしでしょうか。日本の政権もチェンジし、これからどのような国になっていくのか不安と期待が入り混じった感じがしますね。

さて、「障害者自立支援法」はいつたいていどうなっていくのか。民○党のマニフェストには『廃止!』としか謳っていません。先日の新聞報道によると「4年後には廃止して別の法律にする」・平成22年度から非課税世帯の負担を○にする」と載っていました。「負担を○にする」ということについては、人それぞれ一喜一憂があるでしょう。この議論は個々について、私が心配するのはあなたが65歳になった時のことを心配します。みなさまもご存知の通り65歳になると自動的に介護保険証が送付されてきます。そして、制度自体も障害の制度から介護の制度に変わります。(障害によって変わらない方もいます)仮にあなたが65歳になって介護保険に以降し、現在のサービスを介護保険で使った場合、自己負担が○から何千円・何万円になりますよ。介護保険に移行してのメリットはサービスの種類が障害者自立支援法のサービスよりはるかに多いことくらいです。正直、介護はお金がかかります。いまのうちから将来を見据えて日々の生活を考えていった方がよいと思います。このことは、障害のあるなしに関わらず将来が不透明だから考えるのをえない国だからです……。

話しは変わりますが、介護職のなり手がいないのは皆様もご存知かと思いますが、残念なことに茨城県内の介護関係の専門学校三校が今年度をもって募集を打ち切ることになりました。近い将来、介護職がいなくなることになったら「負担○」とか「制度がなっちゃいない」とかの議論どころではない時代が来てしまうのでしょうか……。



入「せき」の「きょ」コミュニティ ☆☆☆



わいわいクラブでは、障害(主に身体障害)が原因で地域社会や家族以外との交流が難しい方を対象に社会参加のきっかけを提供しています。そして、介護されているご家族も同様の悩みを持っている方も少なくないと思います。また、社会参加の気持ちはあるがきっかけがないとか、高次脳機能障害で周囲の理解を得られない方、地域サービスや制度、生活スタイル等の情報がほしい方もお越しください。

活きる
わいわいクラブ
参加者(障害者) &
ボランティア
大募集



参加費：300円/回 連絡先：0297-73-8361 (平日10時～15時)

陶芸家手作りの 使いやすい 楽しく食べられる

笠間焼 介護食器

- ★新取手営業所にて、展示・販売中
お気軽に、お越しください。
- ★営業日 毎週金曜日 PM1:00～PM4:00
- ★お問い合わせ (祝・祭日を除く)
TEL 080-6720-0196
FAX 0297-73-8361

オーダーメイドも承ります



デンクル日記

今年9月に北海道・弟子屈（てしかが）の友人のところへ行ってきた。

今回も羽田空港まで我が家によく来てくれているヘルパーさんに付き添いとしてお願いし、電動車椅子を使って鉄道を利用して行く。以前は車を使って空港まで移動していたが、都内の渋滞が酷く、飛行機に乗り遅れたこともあったので、ある時から鉄道を利用している。空港では電動車椅子は荷物として預けなくてはならない。最近の電動車椅子はバッテリーが密閉式になったため分解する必要がなくなり、コネクターを1ヶ所はすすだけで預かってくれるようになった。さて搭乗手続きの段になって「台風の影響で釧路に着陸できなければ新千歳か、又は羽田空港に戻ってくる」という。いやいや自分にとったら究極の選択である。今日から4日間は家に来てくれるヘルパーさんの予定を全部キャンセルしてある。羽田に戻ってきて一人で家に帰れるとしても、年老いた両親に介護は出来ない。新千歳空港に降りられればそこから先、5時間位かかるが一人で鉄道に乗り、弟子屈へ向える。トイレはあそこの駅の駅員さんにやってもらい・・・等とウダウダ考えたが開き直り、30秒後には搭乗することに決めていた。飛行中、心配したが無事に釧路空港へ着陸。迎えに来た友人の顔を見たときは、正直ホッとした。我々、重度の障害者が一人で旅行することは大変だ、と言うことは判っていたが、急に家へ帰ったときのことを心配するとは思わなかった。そんな事を考えさせられる旅行となった。



● ありがとう ●

寄付

取手市社会福祉協議会 補助金
オリエンタル治療院や移送関係者他の方々から
取手市民より 100万円
木下財団 机（高さ調節のできる）・棚
茨城ヤナセより エコバック・ハンカチ・その他2点
その他、バザー出展用品多数

● ご協力ありがとうございました ●

今後の生きるの活動に有効に利用させていただきます。

編集後記

今年もあとわずかですが、来年こそは良い年であります様にと考えていても中々そうはいかない。今年もやっぱり来年は良い年であります様と思うのは、私だけですかね。 編集担当 鈴木 澄利

平成21年11月7日発行

発行所 NPO 法人 生きる
発行者 染野 和成
編集者 鈴木 澄利
連絡 〒302-0027 取手市駒場4-5-24
TEL/FAX 0297-73-8361
(平日 10:00~15:00)
メール npo_ikiru@ybb.ne.jp
<http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>

活動会員・賛助会員を募集しています

一緒に NPO 法人 生きるの活動に参加してみませんか
皆様のご参加をお待ちしています。

活動会員 個人・年会費 2,000円
団体・年会費 3,000円

賛助会員 個人・年会費 1口1,000円 1口以上
団体・年会費 1口2,000円 1口以上
(活動・賛助会員の総会議決権はありません)

ご寄付の振り込みも、下記口座までお願いいたします。

振込先

・郵便振替 00190-7-778948

口座名義 「特定非営利活動法人 生きる」